

# 知財トレンド 最前線

## 第1回 最新の特許出願とトレンド

産業が育たない。新しく生まれた

発明がイノベーション

特許制度が独占権たる数を減らし、海外向けを起すことで産業は発明の特許権を付与することの出願を強化する傾向が顕著。特許庁や弁理士は、時に大きな技術革新見られる。また、出願先もアジアにおいては中国本から生まれる発明が減少するのでは」といった

発展に貢献する。国内外や韓国に加え、タイやベトナムなど新興国にも拡における現在の出願状況トナムなど新興国にも拡やトレンドとは。特許権大した。以前は特許出願の最新の動向についてユの数で勝負する部分があったが、最近では質を高めニアス国際特許事務所所長・弁理士である梶崎て件数を減らし、それを弘一氏に聞いた。

——最近の特許出願ではどのような傾向が見られますか。

——質が高いことは良い点に映りますが。

梶崎 既存事業を守る

業を中心国内へ出願すが、それだけでは新たなうな取り組みを。

## 海外に向けた出願が拡大

### 中小・ベンチャー支援強化へ



ユニアス国際特許事務所

所長 弁理士

梶崎 弘一氏

数が増える。企業が増え、自社のビジネスなど効果がネスを有利に展開するた出てきた。——最後にこれから新

梶崎 A ——食品分野は出願がIやIOT 活発な分野の一つと言え

梶崎 食品分野において用途が発明として認められたことは大きな意味を持つ。今まで、社内のノウハウで終わっていた

梶崎 食品分野において用途が発明として認められたことは大きな意味を持つ。今まで、社内のノウハウで終わっていた

梶崎 食品分野において用途が発明として認められたことは大きな意味を持つ。今まで、社内のノウハウで終わっていた

梶崎 食品分野において用途が発明として認められたことは大きな意味を持つ。今まで、社内のノウハウで終わっていた

梶崎 食品分野において用途が発明として認められたことは大きな意味を持つ。今まで、社内のノウハウで終わっていた

梶崎 食品分野において用途が発明として認められたことは大きな意味を持つ。今まで、社内のノウハウで終わっていた

梶崎 食品分野において用途が発明として認められたことは大きな意味を持つ。今まで、社内のノウハウで終わっていた

梶崎 食品分野において用途が発明として認められたことは大きな意味を持つ。今まで、社内のノウハウで終わっていた